

淑女検定

☑ チャレンジテーマ

色鉛筆

子どもの頃からなじみのある色鉛筆。たかが色鉛筆、されど色鉛筆。色使いや濃淡の塗り分け方、つや出しなどの技法を心得ていると、スケッチや塗り絵の楽しみが増える。脳トレとしても人気を集める色鉛筆画の魅力とは。

問題 1 果実に丸みを出すためハイライトを出したい。どうすればいい？



- A. 白色で塗る B. 金色で塗る C. 何も塗らない

問題 2 日陰になった暗がり塗りしたい。次のうちどの色がおすすめ？

- A. 黒色 B. 藍色 C. 灰色

問題 3 強い色を抑えたい。その時に役立つ技とは？

- A. 上から白色で塗る B. 指でトントン叩く



SBS学苑
静岡校

今月の先生



【絵を描こう～基本から習得】講師

増田洋子 ますだ ようこ

美術作家

身近な画材である色鉛筆を使い、絵画の基本を指導。単発の講座で塗り絵やシルクスクリーンもレクチャー

SBS学苑 静岡校
INFORMATION
第4日曜日 13:00～15:00
絵を描こう～基本から習得
受講料/6,150円(税別)
(3カ月・3回、税別、管理運営費含む)
入会金/3,000円(税別、全講座共通)
教材費/600円(税別) 講師/増田洋子
色鉛筆でも見応えのある作品が描ける
ようになります。
【お問い合わせ・お申し込み】
Tel.054-282-1191

正解 & 解説

問題 1 → 正解 C

最も明るい色は何も塗らないで残した「紙の色」。白色を塗るより明るく、「何も塗らない色」も一つの色として捉える。でも、塗っていくうちに色がこすれて広がってしまい、元の紙の色が残らないことも。そんな時、重宝するのが消しゴム類。色鉛筆＝消えないというイメージがあるが、ノック式の細い消しゴムや、デッサンで使う練りゴム、軟らかい鉛筆用消しゴムはつや出しに一役買ってくれる。

問題 2 → 正解 B

ぱっと見て黒く見えるからといって黒一色で塗ってしまうと、奥行きや味が出づらくなり絵も暗くなる。「黒は強い色なのでほとんど使わないです」と増田先生。藍色を用いて濃淡を出すことで立体感が出る。目に映る色より明るめのトーンで塗ることも見栄えを出すコツ。藍色一色ではなく、茶色や紫色、青色などを重ねるとより濃淡が出てワンランク上の仕上がりに。灰色は白が混ざっているので日陰らしさは出しづらい。

問題 3 → 正解 A

「最近では白が入っていない色鉛筆セットも見かけますが、実は結構使える色なんです」と増田先生。色味を抑えたい時は、塗った色に白を重ねるとまろやかに。白や薄だいたい色の出番は案外多く、つや出しにもつや消しにも、立体感を出したい時にも役立つ。ほかしたいた時は、綿の布やティッシュ、綿棒でやさしくこする。おすすめは油性色鉛筆。「簡単でもあり、奥深い世界でもあります。没頭すると楽しいですよ」